

# 風の記憶

～ありがとう、みこちゃん～

## 「風の記憶　くありがとう、みこちゃんく」発行にあたって

優しいだけではなく、厳し過ぎるわけでもなく…

みこちゃんの「だいじょうぶよ！」は 根拠は無くても

不安な気持ちをどこかに運び去ってくれる魔法の言葉。

ゆるくいつながりて、誰がどんな関わりだったかも気にならないような…

子どもは思う存分泣けて、大人は心から笑いあえる…そんな居場所が確実にここにある。

なんでも楽しむ…とにかくやってみる…いつの間にか巻き込まれる

…巻き込まれることが楽しくなる…いつもそこにある心の拠りどころ。

何かに迷ったら、話しかけたくなったら、立ち戻れる「風の記憶」を

この一冊に詰め込んでみました。

みんなの心の中に風は吹き続ける…ずっと！

二〇一四年十二月

みこちゃん本編集委員会 実行委員長 吉仲 理恵



## 出会った！ケンカした！ 楽しみで広がった！

NPO法人ふれあいの家—おばちゃんち

幾島 博子

夜遅くに自宅の電話が鳴った。みこちゃんからだった、開口一番「ごめん」。そう言えば、昼間に事務所でムカツとしたことあったな、私はさほど気にしてなかったけれどみこちゃんはずくっと考えた末に電話くれたんだ…。夜の講座運営の分担で行き違いがあり、きゅりあん入口あたりで周りの人が引くほど大きな声で私が怒鳴った日の夜中、電話で二人で泣きながら言い合ったっけ。

設立当初から月初めの月曜日の夜に行われていた事務局会議の中で、また私が昼間に事務所に入入りするようになってからは事務所で、みこちゃんと私はずいぶんと激しくケンカをしました。ケンカではないですね、議論でした。時には感情的になり「聴く」「受容する」なんてすつとばして自己主張し合う二人、周りの人たちはさぞやハラハラドキドキだったことでしょう。



こんな風にみこちゃんと私はちっとも「いつも仲良く」ではなかったのです。私たちは14年ほど前、南新宿で月に1回行われていた10人での「グループコンサルティング・セッション」(コミュニケーション・カウンセリング・センター主催)の教室で出会いました。2回目からは終了後9時過ぎから尚ちゃん(設立メンバー、現監事)と3人でタイ料理か中華料理を食べながら様々話し合うようになったのですが、そこでもすぐに旧知の仲のように議論をするようになりました。そして今日のおばちゃんちになるまでに、どれほど議論をしたことでしょうか。その中で一貫していたのは、違っていて当たり前、違っていることをお互いに認め合う、だからといって諦めないましてや無関心ではないということ



と。認め合うとは言ってもはたから見たらケンカとしか思えないような言い合いもしばしばでしたが、それはどんなに言い合っても安心だから、つまり違っていていいということが大前提だったからこそできたのだと思うのです。

「違いがあるから面白い」、そしてもう一つみこちゃんがよく言っていたのは、おばちゃんちの基本にもなっている「やりたい人ができることを楽しく！」です。私は自分個人の遊びごころも欲深くやりたいことはつきませんが、社会的な活動に関しても、次々に「こうだったらいいな」「やりたいな」ということを思いつきました。それをぼろつと言葉にすれば、みこちゃんはずぐにそのことの実現に向けてのアドバイスをくれて、勇気づけてくれました。私だけでなく、おばちゃんち界限の誰にでもそのように接していたのだと思います。そして、ちよつとでも辛そうにしていると、「無理をしているんじゃないの？」と気づいてくれて、なんらかのアドバイスや妙案を考えてくれました。だからこそ、おばちゃんちも界限の動きもみな楽しそうに、そしてこれだけ賑やかになっていたのだと思います。

お互いの違いを認め合い、義務や責任では

なく「やりたい！」の情動から始まり、果てしなく広がるおばちゃんちの世界は、いつまでも居つづけたいと思えるところ。みこちゃん、この心地よいアリジゴクの世界に私を誘ってくれてありがとう！もう少しだけケンカ（議論）をしたかったよ…。

### ■幾島博子（おばちゃんち）

東京都生まれ。明治学院大学社会学部在学（教育学専攻）中に、都内の児童館でアルバイトを経験し、児童館職員は自分の天職と感じる。卒業後豊島区での非常勤を経て、品川区の児童館正規職員となる。児童館担当、学童保育担当、すまいるスクール（全児童対策事業）担当を歴任し、二〇一二年春に早期退職。

在職中に渡辺美恵子と運命的に出会い、NPO法人ふれあいの家―おばちゃんち設立に参画、事務局長として活動を続ける。退職後は理事に就任。二〇一四年四月より、故渡



幾島（向かって左）と、みこちゃん

辺美恵子の遺志を継ぎ、代表理事に就任。信条は「自分自身の『やりたい気持ち』を大切に」「目の前のたった一人の人を大切に」「誠実」活動のよき理解者である夫との間に二女。

## 渡辺さんの思い出

品川区子ども未来事業部長

金子 正博

初めてお会いしてから十年になりますか。保育課時代に「子育て」をテーマに地元で活動している人たちがいるとお聞きし、お会いしたのは。その後、産業振興課に異動すると、

空き店舗対策で子どもを預かる施設ができないかと企画を持ち上がり、第一候補の「おばちゃん

ち一号店」が実現しました。（子育て交流ルーム「品川宿おばちゃんち」）

子ども未来事業部に異動すると、待っていたかのように、おばちゃんち二号店の計画が浮上し、品川区商店街連合会を通して候補地が中延に絞られました。その時、ちよつとホツとしたのもつかの間、突然降って湧いたように一号店の入っている建物の建替え話が上がり、両者が同時に進行し



品川区との初めての協働事業「品川宿おばちゃんち」(移転前)道路に面した部分はコミュニティカフェ「街猫」として営業していた

苦勞されたのが、今となつては懐かしい。二〇〇九年には、渡辺さんのお宅の隣に「品川宿交流館」を開設しました。建物が完成した頃、一階の奥行こそあまりないが横に長いトタン製の庇の上で、上からの雨だれが、大きな音を立てていると苦情をいただきました。次の雨の夜、すぐに実地検分に行き、表に出てきてもらつて改善を約

束した後、様々話をしたのが、降る雨と共に妙に柔らかな心に滲みた事を覚えています。

イベントやら何やらで、よく東海道をブラブラしていたとき、街猫の前で渡辺さんに遇うと、いつもコーヒーに誘われました。私は常々女性の誘いにはのらないことをモットーにしているので、いつも「急いでいます。」とお断りしてきた自分が、今となつては恨めしい。

渡辺さん！天国で紅茶を用意して待っていてください。できれば、クイーン・メアリーで！

合掌

## みこちゃんへ

### 会計の仕事を通して

おばちゃんち事務局 会計担当

戸鞠 由利子

会計の仕事を頼まれてもう十年になります。まだおばちゃんちがNPOとして固まっていな時代でしたが、みこちゃんは早め下手を打ち「会計は団体の要であり、その内容が信用に繋がるのよ。」と誘われました。屋台骨である会計は、責任も重く大変な事と思いましたが、元々ボランティアの仕事等しなればと思っていた事もあり、お引き受けしました。

事業も細かくて内容を把握するのが大変でしたが、みこちゃんは暖かい心で見えて下さり、試行錯誤しながら二人三脚でやってまいりました。これからも信用ある会計はゆるぎなく続く事を望みます。

そしていつまでもふれあいの家—おばちゃんちに、みこちゃんの清しい風が吹き渡りますようお見守りください。

# みこちゃん独占インタビュー

2010年11月。シービー・シナガワの松田誠一さんが、みこちゃんに単独でインタビューをされました。その未公開映像をご提供いただき、編集委員会で文章化しました。



今も、渡辺さんの声が私の背中を押してくれています

NPPO法人シービー・シナガワ 松田 誠一

「それでいいのよ」「摩擦があつてちよつどいいの。楽しいじゃない？(楽しいでしょ!)」  
なんという温かで、(私が)自然でいられる方なのだろうと感じました。

最初にお会いしたのは二〇〇九年三月に開催された「わたしたちの活動紹介展」でした。出展のきっかけは、初めての品川区協働事業提案制度助成事業に町会の名前で企画申請、事業したことです。渡辺さんの笑顔とちよつと低音の声はとても心地よかつたと感じたものです。その四月に「第二回区民と区とで協働を考える懇話会」に参加することになり、折々に地域活動のスタンスについてお考えを聞くことができました。

翌二〇一〇年、懇話会の解散後もイベントの継続で一致し、つなぎの第三回を(私が)引き受けました。実行委員の皆さんの要は渡辺さんだと感じていましたので、副実行委員長をお願いし、一年間相談にたくさん、たくさん乗っていただきました。このことが今ある私のベースになっているととても恩を感じます。第四回実行委員長を渡辺さんが受けてくださり、更に勉強させていただきました。

渡辺さんを取材したのは二〇一〇年十一月五日でした。彼女の珠玉のフレーズを私の宝物にしたいと感じたからです。「ゆるやかにつながる」という渡辺さんの言葉は、「協働ネットワーク」に継がれ、私の町会活動やNPPOなどの活動でも種をまき、育てていきたいと強く思っています。今も、渡辺さんの声が私の背中を押してくれています。私の人生の四人目の恩人です。

## ドラマ性がなくっちゃね

渡辺(以下、み)・・・人と人の関係をつくる私たちの活動は、アクシデントを好み、トラブルを好

み(笑い)、ドラマを求めるんだよねー。ドラマ性が

なければ、楽しくないというか、生きていく

生きがいみたいなものは、非常に薄くなると思

うんですよ。昔の人じゃないけど、困難の山を

越えて、はー。達成感があるしよかつたなーつ

て、それでふと気が付くとそこに、なんか仲間

がいるって感じでしょ。泣いたり吠えたりおこっ

たり喜怒哀楽をまさにかきたてる訳だから。

松田(以下、松)・・・人って当然声を出してなんか

しゃべろうとすれば、摩擦なんかがあつたりす

るよね。価値観の違いとか。

み・・・そうそう、その価値観の違いを楽しむとこ

ろまで行くとすごく楽しいわね。いつも平均化

した自分の似た者同士で寄り添っていけば、そ

りや大過なく時間は過ぎていくんだけど、退

屈だよ。 (笑い)ビジネスライクという言葉が

あるけど、あんまりそれは持ち込みたくないで

すね。なんだろ。なにライフっていうかね。エン

## 行政がやりたくてもやれない、 システム化しにくい、 でも住民がニーズを持っている

ジョイライフ？ そういう、仕事も遊んじゃうって  
いう感じの…。

**松**..その人が必要なものがそこで提供できて、更に遊びだから向こうから返ってくるものも笑顔がいっぱい。

**み**..そうですね。感謝とかね。自己満足じゃなくって、そうでありたいなーというのは思っ  
てやっていますけども、でもやっぱり企画書何本  
書いても、通るときは熱い想いがある時。だから  
まず何をやりたかったのかを書きなぐってか  
ら、相手が何を求めているかを見極めてそぎ落  
としていく。Aさんと向き合うときはこの熱い想  
いのこととここをそぎ落とせばAさん向きにな  
る…でもこっちとこっちをそぎ落とせばBさん向  
きになる(笑い)。

**松**..作戦を立てる。

**み**..そうそうそう、でも熱い想いは譲らない。と  
いうのは結構通りますね。

### 私たちはスキマ産業

**松**..おばちゃんちの場合は、いわゆる自前でやっ  
てる自主事業の収入と、他のいくつかある収入  
|| 企業からくるものとか || 全部含めると、企画

書出して得られる補助金や助成金は何パーセン  
トぐらい？

**み**..約七割弱だから、かなり助成金とか委託  
金？ でなりたってるわねー。

**松**..ということは行政のニーズをかなり入れて  
こないと…自分のやりたいことばかりは出来な  
い？

**み**..私たちはスキマ産業。地域福祉の隙間で行  
政がやりたくてもやれない、システム化しにく  
い、でも住民がニーズを持つてるといふものを、  
やつていくことをモットーにしてるから、そうい  
う意味では(まあNPOだから当然なんだけど)  
公共性・公益性っていうのは求められている。で  
も、その公益性といいつつも、福祉ではない、どち  
らかという予防だったりまちづくりだった  
り…その中でどうしても必要だと思ふものは赤  
字覚悟の持ち出しでやつてきてる。行政のニー  
ズ、行政としてもやつてもらいたい、うちの利用  
者の方もやつてもらいたい、そういう隙間で自然  
にやれているんだと思います。

**松**..だって行政だって区民のお金を使いながら  
区民の為の施策をしようとしているわけだか  
ら、それはまるつきり外れてるなんてことはない



2011年の「社会貢献活動しながわ」パネルディスカッション。  
品川区の協働は、「それって何？」っていうところから始まりました。

わけで、向き合い方は一緒、向いている所は一緒で、どういうふうにもこのまちをしたいかっていうのはそう違（たが）わないもんね。それが協働のポイントだよ。

**み**..そうですね。だから自分勝手な協働を行政に押し付ければ当然それは行政もNOって言うし、行政も自分の安上がりということだけを考（かん）えてこっちに押し付けてくればあたしたちもNOって言う。両方が手を組むことでそこできりそのサービスをしようとしている人の顔が見える、っていうことが大事なんで、しかもそれはおばちゃんは大企業じゃないからいつべんにたくさんの人のニーズに応えないでいいとわたしは思っているから、一人喜ばばいいの、極端な話。そのためにお金を使つてなんで悪い!? っていうこういう風に..

**松**..胸張つちやつてるから（笑い）

**み**..胸張つちやつてるから！（笑い）で、結構、一人そういう困っている人がいるっていうことは、その人に隠れて何十人も人がいるって確信しているから、けして一人のわがままに比べるといいことではない。

**松**..なるほどね、たまたまその人のニーズが見え

たけど、その人だけで終わらないでさーつとなげるところがポイントだね。

**み**..その人にとつてそれが適当でも、別の人にとつてはまた似て非なるものが欲しい場合もあるから、そういうものをたくさん用意するのがコミニティの、まちや地域の役割だと思ってる。おしなべて公平に、というのは行政の仕事の仕方だけれども、限りなく一人の住民のニーズに沿って動く、というのがまちの生き方だと思う。暮らし方だと。

**松**..いまの言葉、いいね。ついつい自分も公平になつちやつたりするよ。それをやつちやうとみんなもそうしなくちゃいけないから、つて。

**み**..あつ、それはすごくいけない！（笑い）なんでそれいけないと思うかって、自分は地方公務員で、それでさーつと縛られてきたから。今あなたはこの人に対してそういうことをしてあげたら、全部の人にそれを必要としている人にしてあげられるんですか？ って言つて鬼の首を取られてた（笑い）

**松**..それは、しないための一番最後の殺し文句だね?!

**み**..そう。それはすごく不自由だったんで、今こ



保育サポーター養成講座のひとつ  
まちのおばちゃんになくてはならない  
「良質のおせっかい」について理解を深めます。



の人が喜べばそれでいいじゃんっていう単純な発想なんだよね。で、次の人が出てくればあたしごめん一人でお手上げ出来ないって言えばいいだけの話なんで、そうしたらきつと私に代る他の人が、こっちの側のまた違う発想で手を差し伸べるっていう…。

**松**.. 渡辺さんとサービスを受ける人が一対一で終わらないで、結局そのつながりがプレーヤーを増やすことになる。お手伝いでサポーターでかわっている人を増やすことにもなるよね。プレーヤーをさがそう、サポーターをさがそうと思うより、一人の人の満足をシツカリつなげるこ

### 喜びの原点は…

**み**.. いろんなところに行つて、なんでこの講座に来ましたかって聞くと、自分が親切にされたからとか自分がつらいときに助けてもらったから、っていう人たちが大体七割ぐらいいるよね。だから今度はお返しする番だ、っていう人たちにすごく出会うんで、人が信じられるんだよね。

**松**.. いいねえ。

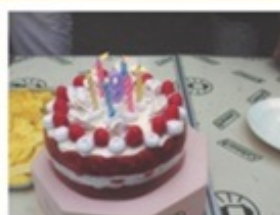
**み**.. わたしもいままで大きなイベントをいくつもやってきたけど、子育て支援の人たちのグループの中では、最終的にはみんなで支えあうことができる。

**松**.. 喜びの原点だね。

**み**.. うん、そうですね。あのね、裏切られるとかなんとかって簡単にみんな使うけど、けしてそうじゃない。必ずしも思うようには相手は動いてくれないけど、基本は一人一人が一生懸命生きていく結果でしかないの。あたしたちは幸せだと思っね。こういうその…人にかかわれるところでやってきているのはね。

**松**.. コミュニティビジネス(CB)の原点はそこだと思っよ。経済経済って、ベンチャーだとか株式会社起こしてやればいいんだからさ、どうちがうの？ っていうたらそこ。手作りでもあり…。

**み**.. だからすつとく人に警戒心ないよね。いい意味で。お隣の交流館との関係もどんどん深くなるし、そこにくる青年たちもどんどんやりたいことやれるのをこ隠居さんがどんどんサポートしてるし、で、要するに惜しげなく人と人がつながりあうっていうの？ これはあたしの人脈だから、



毎年登場の「お誕生ケーキ」(食べられません！)  
2012年10周年記念パーティ@きゅりあん  
もちろん、この日も。

なんていうのいないから。

**松**.. そういう風に思っている人はいっぱいいるんだから、これはいつか実現できると思うよね。

**み**.. 会社なんかにいると競争の原理が入るから、どこを抜くか抜かれるかとか、どっちが大きいか小さいかとか、勝つか負けるかとかっていう価値観がどうしても入ってきて、それが評価になるけれども、わたしたちNPOの世界ではそういうのだからね。CBの世界はわからないけど..。

**松**.. NPOもCBも比べるもんじゃなくて、要するにコミュニティの課題を事業計画だとかビジネス志向でやってくこと、これが領域としてCB。だから、NPOはCBではない。とかいうことではない。

**み**.. じゃそういう意味での礎とか下支えのところではおんなじなんだね。コミュニティということで大きくくれる、それがNPO法人なのか、たとえば食堂なのか株式会社なのかっていう..。

**松**.. そうですよ。継続してやっていくためには代がね、渡辺さんが次を誰々に託したいよっていう風に思えるようになっていくためには、自分

の私財と心だけではいかないでしょ。そこはやっぱり事業性を持って、収入とかそういうこともちゃんと成り立つようにしていかないと続かないですよ。っていうこの概念が、CB。

**み**.. NPOも今そこにぶちあたってるの。もう十年だからね。(※NPO法Ⅱ平成十(一九九八)年十月施行)カリスマ性みたいなことが言われているわけよ、NPOを研究している人たちの中で、どこへいってもその人がいるから成り立ってる。でもね、それじゃいけないと思うんですね。もちろん全体のリーダーシップをとる人間にはひとつのカリスマ性とか特色があるかないかでは、人のついて行き方は違うかもしれない。でもその人らしさみたいなのはすべての人が持っているわけだから、それが発揮できるシステムを構築しておけば、代が変わってもその組織が変わるってことはないような気がするんだけどね。でもまあ、やめて、新しいのが生まれてもいっかなうとか思ったり。

**松**.. そういう考え方もあるよね。

**み**.. うん。そう、いくつもポコポコもこもこ出来ればそれだって地域は成り立つので、何が何でもおんなじ様に引き継ぐ、っていうのではなくてい

10周年記念DVD  
「ホッとひといきあしたのまちへ」  
撮影風景より



い。新しい組織だからね。違う人間が引き継いだら、ミッションさえみんなが確認できてればまったく違うNPOになったっていいんじゃない？とも思ったり。

### 必要なのは、熱い想いと

松.. やりかたはそれぞれあるよね。でもその「熱い想い」しつかりもってないとやっぱりダメだな。

み.. そうね、それともう一つ私職場で上司によく言われたのは、「想いだけじゃだめだ」って、想いをやっぱり絵にしろっていうか、形に、論理的に整理をして企画書つくれっていうことはずっと言われたりしてる。

松.. 行ったり来たりだ。企画書だけでも駄目だし。

み.. 駄目だし。

松.. ハートがなきゃ...

み.. 駄目だし。両方なくちゃ。

松.. イメージだけでも駄目...

み.. 駄目。でもまあ、イメージのほうが大事かもね。ああしたーい!! っていうね(大笑い)。

松.. そうだね。どんな推進力もいやいやでは絶対進まないもんね。

み.. そうですよねー。夢が実現できるから、みんなエネルギー出すんで、夢を持つ方がいいやね。あたしなんかね、先に言いますよ。やりたいこと。

松.. ほー

み.. 言っ、首絞めてやるの。(大笑い)

松.. (大笑い)自分の首を？

み.. うん(大笑い)

松.. 自分の首、絞めちゃうんだ。(笑い)

み.. そう。こうぐじゅぐじゅ温めておくっていうのはあんまりないね。まあ、寝かすことはたまにあるけども、閃いたらすぐ口にする！ そうしなるといいアイデアももらえないし、情報は飛び込んでこないからね。

松.. なるほどなるほど、その効用はあるわ。思い当たる節ありますよ。僕、自分でしゃべってやりたいて言ったやつはあんまりやれてないんですよ、実らないの。

み.. (大笑い)

松.. 人からやった方がいいよとか、やってみないとか、やってくれないっていうやつは、結構実になるの。あれってなんなんだろうね。

み.. それはきつと松田さんは、その人を思いや



しながわ元気フェスタでの品川宿忍者修業の旅。北品川のまちに年2回、すっかり定着しました。

るからでしょ。この人はこういう風にやりたいと思ってるに違いないとか、こうやったら面白くなるぞとか、っていう風に人のアイデアをいじるのを楽しめるんだと思う。あたしは、自分で自分をいじるから。で、怒られる、みんなに。また忙しくするとかさ、またろくでもないこと考えてるでしょ？ とかさ、言われちゃう。そこはね、女房役はできないんだよね。

松..でもそれもなんか、周りが楽しんでるみたいな雰囲気を感じられる。困った人だなく、なんて思ってる。

み..そう、思ってる思ってる。困ったボスだと思ってると思うんですね。で、忘れるし。昨日そんなこと言ったっけ？ 今日はそのうううう考えじゃないの。って平気で、ときどきクルツとこう向きかえるから。

松..それは...あれだなー、肩に力がはいんなくていいね！

み..周りはたまつたもんじゃない(笑い)ごめんなさいは、するけどね。

松..笑顔が絶えなくていい。



## 継続するどうしよう

み..あとね。継続するというのは使命だと思ってるんですよ。思いついて、やりたい、やり始めたらつづける、っていうのは使命であり、力だという風にも思っている。いつやめてもいいよっていう覚悟をもちながら継続していくっていうのは、両方矛盾しているみたいだけれども。その潔さは、あきらめじゃないんだよね。うん。

松..その話だとししまう時というのは、深く、やっぱりNEXTがⅡ次の展望とか次の仕掛けとかあつて、しまうんだらうな。

み..うんうんうん...そうですね。

松..今までのものがあつたからこそ、それをいったん閉じて次の扉っていうイメージに聞こえたいけどな。やめるにしても、ただ単にやめるとか、疲れたとかそういう事ではない。

み..そうですね。「あ、こりや無理して続けていくことないな」っていう時つてあると思うのね。でもねー、今14にもなってる事業がね...いままでにやめたのが一個もないから、ちよつと今のは撤回かもしれない！（※二〇一〇年当時。二〇一四年現在は21）

松..もつともつと増えそうだね。



2004年から始まった「はっぴいトライアングル子育て交流会」。トライアングルは、親子と子育て系自主グループと地域で、「つながり」の象徴でした。みこちゃんは初期から世話人のひとりとして参加、2007年からは浅間台小学校をお借りして、楽しいイベント形式になりました。

**み**…だからいつかお話ししたようにスローでセーフテイでスリムでって言っても、スリムができてなくて、きりわけてきりわけてきりわけてきりわけてきりわけて、私も含めて飽きっぽい連中がつきつぎ新しいことにチャレンジするから、やっぱり増えていっちゃうんだよね。

**松**…だから古びないんだね。

**み**…飽きないコツっていうかね。

**松**…で、やってることも古びないし、マンネリ化しない。

**み**…そうですね、それはいつの間にかできたルールですね。つまりいろんな広場が「活動」を五つの広場に分けてるんですけど、五つ目の広場は「きかくの広場」というアイデアの居場所なんだよね。この「きかくの広場」ではいつも新規事業を立ち上げるわけ。で、それを毎年一個やってるから…(笑い)

**松**…仕込みのところだ、遊びと。

**み**…そうそうそう。それが世の中のニーズに、いつも新鮮なアンテナを張っとく事になっている。というか、張ってんだよね、結構みんな! (笑い)



ギンヤンマ

## ■松田誠一

(シービー・シナガワ)

NPO法人シービー・シナガワ理事／事務局長、協働ネットワークしながわ、西品川三ツ木会(町会)会長、三木小学校同窓会幹事長、健康生きがいつくり品川協議会

東京都品川区生まれ。大学卒業後化粧品会社に勤務。営業十七年・企画十七年・人事教育二年経験後、早期退職。再就職せず、地域活動に勤しみNPO設立。人づくり講座、健康講座など企画づくりを生業としつつ、講師・アドバイザーとして地元を中心として各地で活動中。わくわくするモノ・ハゼ釣り。



毎年増えるおばちゃんちの事業

# おばちゃんち理事と仲間が語る みこちゃんの魅力って

利用者の立場とはまたちがう、みこちゃんと同じ視点で、活動を共にしてきたおばちゃんちのみなさんに、その人柄と魅力を伺いました。

初めて会ったのは大学生のころ。元気なおばちゃん、あれよあれよと夢を実現していき、すごいなーと。この世代を超えた感じは他では体験できない。ずっといつしよにいたくなる人。(坏祐美/理事)

まだ戦いが終わっていない。「まちと子どものかかわり」30年間の追及の果てに、運命に導かれたとしか思えない。もっと戦いたかったなー。話したいことがいっぱいある。(宮里和則/理事)

高校生ぐらいの時に会って、みこちゃんの「あなたのままでいいんだよ」というのが大好きでした。「つらいときはつらい、って言いなよ」と心配してくれたり。時には叱られることもあったけど、僕にとってはやさしい人でした。(犬塚尚樹/理事)

館長(出会いの当初は中野区の児童館館長だった)なのに、子どもひとりひとりにきちんと向き合っていることにまず驚いた!(幾島博子/代表理事)

僕は普段結構上から目線なんだけど、それを超える人、しかも女性ということで出会いは衝撃的だった。みこちゃん自身のことについて、もっと聞きたい話があったのに。(小栗崇資/理事)

早期退職で保育から一切足を洗い、のんびりしていた頃、みこちゃんに会った。こういうタイプの人には初めてだ! って思った。みこちゃんは"のせ"上手で、話をしているとつい「うん。」って言っちゃうの。一緒にいるとワクワクする。彼女に会って本当に良かった。(岩崎みつ子/副代表理事)

いくちゃんからの紹介で繋がりが出来た。私も母から「みこちゃん」と呼ばれていたが、自己紹介の時に先にとられた(笑)。私にとってあこがれ。素晴らしい人。日光街道と一緒に歩いたり、よくケンカもしました。(矢内美佐子/副代表理事)

元気なおばさんだなー。この人面白そう! って思った。(戸鞠由利子/職員)

念願の昭和通りおばちゃんちが出来て、これから...という時だったのでショックは大きかった。一緒にいると安心できた。大好きな人です。(今野良子/職員)



2013年5月定期総会

<p>2002年</p> <p>9月 ふれあいの家—おばちゃんち発足</p>	<p>おばちゃんちのおもなできごと</p>	<p>わたしの できごと</p>
<p>2003年</p> <p>3月 NPO法人格取得、「完璧な親なんていない」開催</p>	<p>しながわ子育てのおもなできごと ※</p> <p>9月 品川区独自の幼保一体施設「二葉すこやか園」開設、品川区立家庭あんしんセンター内にファミリー・サポート・センター開設</p> <p>10月 ジャスコ(イオン)品川シーサイド店オープン</p> <p>12月 りんかい線全線開通</p> <p>5月 八潮南小学校に経済学習体験ができる「スチューデント・シティ」開設</p> <p>10月 東海道新幹線品川駅開業</p> <p>4月 しながわ中央公園全面開園</p> <p>6月 公設民営型の幼保一体化施設として、ぶりすくーる西五反田開設、一時保育「オアシスルーム」開始</p> <p>12月 イトーヨーカ堂大森店オープン</p>	
<p>2004年</p> <p>4月 「ホットほっとHOTT」・ニュースレター発行開始</p> <p>5月 1歳お誕生日おめでとらミニコンサート、大崎「みこちゃんち」開始、しながわ子育てポータルサイト「てとととねっと」編集局発足(独立・継続)、品川子育て情報誌「SKIP」編集委員会発足(独立・継続)</p>	<p>1月 子どもすこやか医療費助成制度開始、小学6年生まで医療費無料</p> <p>2月 病児保育を開始</p> <p>6月 大崎保育園に地域交流スペース、ポップンポップルームオープン</p> <p>12月 近隣セキユリティシステム「まもるっち」を区内小学校全校で実施</p> <p>3月 小・中学校全校で小中一貫教育開始</p> <p>4月 一般不妊治療費助成制度開始、全国初の公立施設一体型小中一貫校「日野学園」開校、すまいるスクール区内小学校全校に開設</p>	
<p>2005年</p> <p>10月 保育サポーター養成講座開催、保育派遣システム「えくほ」開始、荏原ほっとサロンにて「ニッコリータ」開始(「子育て仲間*はらっぱ」と協働実施、のち独立・継続)、子育て・子育てにやさしいまちづくりネットワーク会議INしながら開催</p>		
<p>2006年</p> <p>5月 3歳お誕生日おめでとら「ほんわかコンサート」開催</p> <p>11月 子育て交流ルーム「品川宿おばちゃんち」開設、「ほっぺ」「街猫」「なんくるないさ」「えがお」「らくん・ういず」「まちの子育て情報室」開始。「みこちゃんち」大崎より品川宿おばちゃんちに移転</p>		
<p>2007年</p> <p>3月 第1回品川子育てメッセ2007開催</p> <p>4月 はつびいトライアングル参加(2011年)</p>	<p>6月 すくすく赤ちゃん訪問事業開始</p> <p>7月 都内初の軽度発達障がい児対象デイサービス(コンパス)を品川児童学園で開始</p> <p>9月 都内初の「保育所認定こども園」の認可取得</p> <p>10月 品川区社会福祉協議会に区内2か所目の大井ファミリー・サポート・センター開設、子どもすこやか医療費助成が中学3年生まで</p> <p>4月 全国初の手話で教育するろう学校「明晴学園」開校</p>	
<p>2008年</p> <p>6月 5歳お誕生日おめでとら「ほんわかコンサート&amp;シンポジウム」開催</p> <p>11月 あしたのまち・くらしづくり活動賞子育て支援活動部門内閣総理大臣賞受賞</p> <p>12月 「品川に100人のおばちゃん見つけ！」(丹羽洋子著・ひとなる書房)発刊</p>		

2009年	<p>7月 第2回品川子育てメッセ2009 開催(以降定例開催)</p> <p>10月 「野外活動プレーバートナー養成講座」開催</p>	<p>1月 品川宿交流館本宿お休み処開館</p> <p>3月 子育て支援「のびのびダイアリー」完成</p> <p>4月 Hibワクチンの任意予防接種費用の一部助成開始</p> <p>4月 26号線の工事で閉鎖したタコ公園(神明児童遊園)リニューアル</p> <p>10月 在宅型保育ママ事業開始</p>
2010年	<p>2月 社会貢献活動しながわ参加</p> <p>4月 品川区立「北浜」ども冒険ひろば「運営委託</p> <p>8月 第1回「はらっぱ(二葉)であそぼう!」開催(以降年数回共催・協力)</p> <p>11月 社会福祉法人品川区社会福祉協議会地域福祉功労者賞受賞、「しながわの一番店発見プロジェクト2010」審査員特別賞受賞</p>	<p>1月 事業型保育ママ事業開始</p> <p>3月 東日本大震災、阪急百貨店大井食品館オープン</p> <p>4月 東京都立品川特別支援学校開校</p> <p>6月 品川学園にスチューデント・シティ、ファイナンス・パークオープン</p> <p>10月 しながわ水族館開館20年記念イベント開催</p> <p>11月 東品川海上公園にミッフィー広場が完成</p>
2011年	<p>2月 八潮事務所(こみゆにてい)から八潮協働推進室へ開設(→2013)</p>	<p>4月 区立小中学校で土曜日(第1・3)授業開始、近隣セキユリティシステム「新・まもるっち」リニューアル</p>
2012年	<p>1月 「ほっとサロン」じつこ@八潮開始</p> <p>4月 北浜乳幼児親子事業「北浜でもっとあそぼう」開始(月2回定例実施)</p> <p>9月 10歳お誕生日おめでとう「ホッとひととき あしたのまちへ」開催、活動紹介DVD「ホッとひととき あしたのまちへ」制作、みこちゃん検査入院、闘病生活へ</p> <p>10月 子育て交流ルーム「昭和通りおばちゃんち」開設</p>	<p>4月 荏原エリアに文化スポーツ・コミュニティ施設として「スクエア荏原」がオープン</p> <p>8月 第1回品川区子ども・子育て会議</p>
2013年	<p>4月 品川区「いきいきあんしん子育てガイド」編集委託、「品川SKIP編集委員会」の協力で発刊、子育て交流ルーム「品川宿おばちゃんち(北品川2丁目)移転</p> <p>5月 全スタッフ研修・定期総会でみこちゃん復活宣言</p> <p>6月 品川区子育て交流サロン、大崎に「こころむ」(荏原すきっぷひろば)運営委託、「こころむ」品川SKIP編集委員会」の協力で開始</p> <p>7月 子育て広場事業学習交流会開始</p>	<p>4月 消費税8%に</p> <p>7月 品川児童学園分室として、子ども発達相談室「戸越ルーム」がオープン</p>
2014年	<p>1月 みこちゃん再入院</p> <p>4月 みこちゃん逝去 代表理事に幾島博子就任</p> <p>12月 「みこちゃん思い出の会」開催</p>	<p>4月 消費税8%に</p> <p>7月 品川児童学園分室として、子ども発達相談室「戸越ルーム」がオープン</p>



# みこちゃんの

心配しすぎの親を心配し、心配しなすぎの親をも心配してくれていた  
みこちゃん。いまも心に残るみこちゃんからの言葉を紡ぎます。

## あのときのあのひとこと

私が自分の父が、私が家を離れている間に、関西で精神障害者のノーマライゼーションのNPOを立ち上げて代表をやっている話をしたら「それは、お父さんに『どうしてそういうことをしようとしたのか？』立ち上げた理由を尋ねておいたほうがいいよ」と言ってくれました。残念ながらまだ父には聞いていませんが、みこちゃんも家族や身近な人に「おばちゃんちを立ち上げた理由・動機」を伝えておきたかったのかな、と思いました。(前野涼子・おばちゃんち)

私がいまみこちゃんの「あのひとこと」を思い出すのは、自分に自信を失い凹んでるとき。何か相談した時に言われたのではなく、何でもない時に「みんなに好かれなかったっていいんだよ」と。いい子ぶってたのかな。もう嫌だと思ったら思い出して みこちゃんの「なんちゃってね」とチャーミングに微笑む姿を思い出して勇気をチャージしています。(小林純子・おばちゃんち)

「そのまんまでいいのよ～。子供らしくていいじゃない。」子供の相談をした時に返された言葉が忘れられません。(佐藤亮太・品川人力車)

笑えない話 渡辺さんが品川区内のある福祉施設で講演をされた時のお話です。「ある若いお母さんからの相談で、うちの子のオシッコは青くないのですがだいじょうぶでしょうか？ というのが本当にありました。」と体験談として話されました。もちろん当時テレビのおむつのコマーシャルで、青い液体がおむつにしみこむのを見た母親からの相談だったそうです。笑っちゃうけど、笑えない話でした。(西山宏明・品川区地域活動課)

木枯らしと一緒に届いた訃報に涙が止まりませんでした。いつも人に気を遣い、雰囲気をもたせて下さったみこちゃん！ 私の一番尊敬する大好きな大好きな友人でした。貴女のことは一生忘れません。(伊藤美里・NPO法人IWC国際市民の会)

みこちゃんと絵手紙をやりました。「私、人のまね嫌いだから…」とテキストは見ないでさっさと描いていたみこちゃんでした。みこちゃんはお花(かなり独創的…)私はポスト型貯金箱(普通…)2人とも大満足でした。帰りに「散歩がてら送っていく」と2人でおしゃべりしながらゆっくりゆっくり歩きました。別れられずに何回も送って送られて…みこちゃんのお家の前でさよならしました。おしゃべりの中身は忘れてしまいましたが2人でゆっくりゆっくり歩いた散歩は私の心にいつまでも残っています。(岩崎みつ子・おばちゃんち理事)

癩癩持ちで悩み、疳の虫封じと煮詰まっていた8年前、「手がかからない子っていないわよ。どっかのタイミングで手はかかるから。ほかの子と同じようにできないなんて比べる必要ないのよ。周りをよく見て観察して感受性豊かでいいじゃない」ってみこちゃんからの言葉に救われ、泣きました。時を経て娘も思春期手前、去年のすきっぷひろばで聞いた小3～の女子の習性談も心に残っています。「子育てしながらはたらく」に踏み出せた温かな保育への感謝と、安心できる居場所・地域の繋がりにへの恩返し、なにかできたらなと模索していきます。(桜井桃子・品川SKIP編集委員会)

妊娠してすぐ自宅安静になってしまった私。そうなるから、品川にはまったく知り合いがいないことに気がついた。ママ友がほしいのに外出もできない日々…そんなとき、新聞記事で『おばちゃんち』を知った。思い切って電話をかけ、みこちゃんに『ママ友も子育て情報もなく不安』と涙ながらに相談すると、『大丈夫よ！』とママたちの手作り子育てガイド『SKIP』を送ってくれた。そして、出産。本当に大丈夫だった。SKIPを始め、たくさんのママたちと知り合えて、今、その繋がりの中で、子どもと育ち合っている私がいる。みこちゃん、ありがとう！ 今でも、不安なとき、みこちゃんの『大丈夫よ！』を思い出して、励まされている。(太田典子・品川SKIP編集委員会)

2009年7月、一通のメールが届きました。「今年の旅行は一泊ですが、場所は決まってません。費用は一万円位かかります」差出人の名はありません。集合場所の新宿では、知っていたのは、みこちゃん先生のお顔だけ。橋倉温泉の旅でした。その後私は、「ほっぺ」に属する事になり、とてもとても感謝しています。<あの人寂しそうだから、誘ってあげよう>とと思ってくださったのですね！ 本当に有難うございました。(横張静子・おばちゃんち)

親元離れて東京に出てきて以来、常に肩肘張ってきました。初めての子育てで誰にも頼れず辛かった時、みこちゃんに会い「甘えていいのよ。頼っていいの。」グズリ続ける我が子を抱っこしてくれました。素直に甘える、気持ち良く助けてもらう。その分後で次の人に返していく。3人の母親になった今、そろそろお返ししていく番です。(山下あき子・品川子育てメッセ実行委員会)

みこちゃん なんて素敵なひびき 返事はありませんさみしい 言いたい事が言えた ちょっぴり怒られ「でも」と言うとき 大きな気持ちで受けとめてくれた いろいろな思い出がいっぱい 本当にいっぱい 私には計りれないご苦労があったと思うけど 楽しくすごせる場所を作ってくれ みこちゃん 可愛い子供たちと 笑ったり喜んだり すごしていますよ ありがとう(下村昌子・おばちゃんち)

夢中で泥遊びをしている幼児の我が子を見て「しっかり遊べる子は大丈夫よ」と言ってくれた一言が心に残っています。特に大きな悩みなどがあつたわけではないけど、「大丈夫」という言葉にほっとしました。(武藤紀子・品川SKIP編集委員会)



©Yoko Takahashi

みこちゃんはいつも絶妙なタイミングで「ありがとうね」と声をかけてくれました。ふわっと、相手を思いやる、暖かいその言葉に、力をもらいました。みこちゃん、本当にありがとう。(田添由紀・おばちゃんち)

「いつもの仲間といつもの場所で」子どもにとってどんな場所が遊び場所にふさわしいのか。。。模索しつつ子どもの遊び場難民になっていた私にシンプルな言葉でみこちゃんが教えてくれました。「子どもにとって素敵な場所、お友達を是非、見つけてあげてね。」...そんなメッセージを受け取った気がします。(山本陽子・おばちゃんち)

いつも誰にでも明るく話しかけていたみこちゃん。区役所に挨拶まわりに行った時も、階段ですれ違う役所の方々にまるで家族のように声をかけていたのが深く印象に残っています。(小方麻貴・品川子育てメッセ実行委員会)

荏原ほっとサロンで、子どもほっとらかしておしゃべりの母たちをどうしたものか…とスタッフとして悶々していたあの日、「ママたちに注意するだけっていうのは、あたしはヤダわ！ここはゆっくりおしゃべりできる場所によかったじゃん♪くまちゃんも一緒におしゃべりしてくれば？あたしは子どもたちと遊ぶ方がいいわ♪」とウィンクしてたね。はっぴいトライアングルでも、子育てメッセでも、「みんなでつくろう♪自分が楽しもう♪」っていつも話していたよなあ♪よっしゃ～！みこちゃん☆私も喜怒哀楽フル活用しながら みんなと一緒に素敵な？おばちゃんになる予定なので、時々「くまちゃん♪ナイス(^-^)-☆」って天の声よろしくね～(\*^▽^\*)～(長谷川美知子・子育て仲間\*はらっぱ)

主人の仕事で在日中に、妊娠・出産をしました。新米ママで、子育てに慣れない時、幸いおばちゃんちの代表渡辺さんや皆さんに会い、お世話になりました。帰国して3年、渡辺さんの急逝に、我が家一同愕然とし、唯々哀悼の念に堪えません。おもえば、渡辺さんは私にとって一生の良師となり益友となり御指導下さいました。筆舌に尽くし難いものばかりでございます。いろいろとお世話になったにもかかわらず、何一つお返し出来なかったこと残念に思っています。敬愛する渡辺先生ゆっくりお休みください。(馮林・みこちゃんち利用者※良師益友—中国語熟語…良い師とためになる友)

初めてニッコリータに行ったときのこと、みこちゃんがすぐに賢人を「けんちゃん！」と笑顔で呼んでくれたことを今でも覚えています。そして、ニッコリータが私達親子の居場所になりました。最後にお会いしたのは、3、4年前だったか。変わらずに「けんちゃん！」と呼んでくれました。あの甘えん坊で、託児はおばちゃんちのでないかと泣いていた賢人ももうじき10歳。立派に反抗期です。いつまでも「けんちゃん！」と呼んでもらいたかったです。(吉田理恵子・元ニッコリータスタッフ)

昨年のみこちゃんとのヒアリングの中で、自分の不安や悩みを打ち明けると、みこちゃんは「いいんじゃない～い？ あせらずにやれば良いのよ～ゆきちゃんらしく」っていつもの笑顔でいつもの優しい声で、私を包んでくれました。カチコチな心がいっぺんに、ふわ～と解けていきました。いつも思い出して、気負わず楽しんでいこうと大事にしている、みこちゃんの言葉です。(土屋由紀子・おばちゃんち)

みこちゃんと話してた時に、全てが悟られているようでドキッとした記憶のひとつ。北浜公園で一緒にいる時に「ありのまま素直に生きればいいじゃないの」と言われた印象(実際には言われていないのですが)が心に残っています。心の奥底から自分らしく生きていけるようになったのは、みこちゃんに会ってからのことではないかなと思います。みこちゃんって一緒にいるだけで何か感じさせちゃうオーラ出してるんじゃないのかな。(平松大昌・北浜助っ人プレーパートナー)

初対面の時だったと思います。みこちゃんは、私の横にくるなり、あの笑顔でいきなり「いっしょにやりましょう」って！ 私は、「ええっ？ 一体なにを？」と突然すぎて、パニック。(笑)でも、みこちゃんの笑顔があまりに温かくて優しく、理由もわからないまま気が付いたら頷いていました。みこちゃん、あの時仲間に入れてくれて？ ありがとう。(佐藤淳子・おはなしどころでも隊)

荏原地区にも常設プレーパークを作れないか、ちびっこプレーパークを始めてみたい旨みこちゃんに相談させて頂いた時のこと。「何のためにと考えた時、まずは自分の子どものことを第一に、自分達の子どものためにおやりなさいね。」以来、「外遊び応援」の活動・その他ボランティア活動のために我が子の「今」が犠牲になるという本末転倒なことが起こらないよう客観的視点を意識できるようになりました。(矢田あやの・外遊び応援)



©Yoko Takahashi

第4回メッセの繁忙期、家事や育児が完璧にこなせず自己嫌悪に陥っていたとき、みこちゃんが「親が一生懸命頑張っている姿を子どもに見せるのは素晴らしい事よね。貴方は素敵な事をしているのよ。一輝くんはお母さんの一生懸命な姿を見て色々な事を学んでいるの。完璧な母親なんて居ないんだから時間がつくれるとき沢山愛情を注いであげたら良いんじゃない〜」と。今でも心の励みにして日々悔いが残らぬよう楽しく一生懸命頑張ってます。これからもずっと…(大森久恵・品川子育てメッセ実行委員会)

初めての子育てに行き詰まっていた2004年夏。当時大崎のマンションの一室でやっていたみこちゃんちでみこちゃんと出会いました。「まだ申込み募集中の講座があるから受けなさいよ」半ば強引に言われ、つい頷いてしまったことが、辛く苦しい子育てから抜け出すきっかけとなり、その後続くおばちゃんちとのご縁となりました。(三輪紀子・おばちゃんち)

子どもたちに会うと気さくに名前を呼んで声をかけてくれました。「いつも頑張ってるね」と誉めてくれて、毎日の子育てに少し自信ができました。3人子どもがいると「小さな社会ができるよ」と三人目を勧めてくれたのもみこちゃんです。いつもあたたかくみんなのことを見守っていてくれて、みこちゃんがいるだけで安心していられる。私にとってみこちゃんは陽だまりのような存在です。これからもずっと。(大北千鶴・品川子育てメッセ実行委員会)

私はみこちゃんに「絵美ちゃんだったら大丈夫よ～！」って言われたからこそ、落ち込んだ日もこの言葉に勇気付けられ今まで生きてこられた！そしてこれからもこの言葉を大事にしていきたい。みこちゃんありがとう！(絵美・北浜利用者)

いつも元気な渡辺さん。いつも笑顔の渡辺さん。いつも子どもたちの事を考えている渡辺さん。そして、いろいろな場所でお会いする渡辺さん。当会の事業をする上で、二歩も三歩も先を進んでいた渡辺さん。まだまだいろいろ教えて欲しいこともありました。渡辺さんの、遺志は品川宿で生き続けています。そして私たちも続けていきたいと思えます。(村林慶一・一般財団法人六行会)

「あらこれ腐ってる！」親しいご来客の方へのお茶うけの甘納豆、自分でばくつと食べようとしたときのひとこと。「他で働くくらいならうちに来なさいよ」事務局5年でも、相変わらず事務が苦手で、他が似合うと自負しています(苦笑)みこちゃんの大好きだった部屋の模様替えでは、力持ちがすこしは役立てたかな…。(武田寛美・おばちゃんち)

4年前、私がPTA連合会の会長をしていた時。確か品川区の様々な団体が一堂に会する会議があって、もしかしたら、おばちゃんちが団体として出席するのが初めてらしく「ねえねえ、その会議ってどんな服を着てたらいいかしら。こまっちゃうな。」って、案外と嬉しそうに言っていたのを思い出します。いざ会議にはフォーマルな服装にお化粧。見慣れない感じだったのでさぞや緊張…なんて思ったら、案外あの調子でパワフルに発言していました。ちょっぴり思い出したので。(井上明裕・旧東海道まちづくり協議会)

子どものことで心配事がある時、みこちゃんからの「大丈夫」は魔法の言葉。それで一気にほっとできました。(いのうみどり・品川SKIP編集委員会)

“おはよう”新事務所(品川宿交流館)に今日も元気な声で出勤するみこちゃんの声が今も耳に残っています。今日は事務所に何人いるの？ ケーキを買って来たから一階まで取りに来て！ 交流館三階まで上がって来られなくても、おやつ差し入れの心遣いは忘れませんでした。食べること大好きなみこちゃんとお別れしてもう半年が過ぎようとしています。身近にいた者にとっては信じられない事です。(戸鞠由利子・おばちゃんち)

どうしても“ひとこと”が浮かんでこないのは「メッセージとして意見を伝える」ことを自らに課していたからかな…組織のリーダーとしての信念といい加減さを絶妙なバランスで持ち合わせてるAB型の先輩でした。(吉仲理恵・品川SKIP編集委員会)

「あらー」いいわねえ。「大丈夫よー」「好きにさせてあげればいいのよー」。私が話す、子どもとの嬉しい話はもちろん、そうではない話でも、いつも笑顔と明るい言葉で丸ごと包み込んでくれた、みこちゃん。「大丈夫。大丈夫。」という、みこちゃんのそのメッセージに触れたくて、色んな話を聞いてもらいました。未来を信じる強さと大きな優しさを、みこちゃんに教えてもらいました。(福田希・ほっぺ利用者)

カナダでの思い出。2001年9月にNobody's Perfect導入のため、みこちゃんも一緒に4人でカナダに行ったときの事です。私は必死でつたない英語を話そうとしている横で、みこちゃんは堂々と「こんにちは」、「お世話になります」、「ありがとさんね」と日本語で話していました。それが不思議と相手に通じるんですね。あの口調、あの笑顔で話すのだから、下手な英語よりもずっと伝わるんだなあ、と感心しました。以来、私もみこちゃんを見習っています。(三沢直子・コミュニティ・カウンセリング・センター)

みこちゃんはたくさんのお話を気づかせてくれました。そのひとつ、できることをできる範囲で楽しく…。「これならできる」「このくらいならできる」無理なくできることをみんなが持ち寄れば、すてきなことがいろいろできるのよ…と。それを頭でなく心で感じられたことを、みこちゃんからの贈りものとして大切にしていきます。(今野良子・おばちゃんち)

みこちゃんと初めてお会いしたのは、私が昭和47～8年北品川学童クラブに在籍していた時と思います。家が近所で、一緒に帰り道を帰った記憶があります。時が流れ、北浜公園のおばちゃんちの活動にて、子供の誕生日に、当日来ている皆さんの前で、お祝いして頂いたのは今でも感謝しております。親子2代でお世話になりました。ありがとうございました。(安田・近隣)

長男が1才の頃、顔にできた大きなタンコブを見たみこちゃんは「ふと目を離した瞬間に事故って起こるのよ。怪我しやすいタイプの子って、一生怪我するかも。こちら慣れてくれば行動を予測できるようになるよ。」と話してくださいました。怪我するタイプ!? よく見てみよう。と気持ちが軽くなりました。そしてこの頃から保育に興味を持ち始めたのでした。長男は10才になりましたが、本当にしょっちゅう怪我してます。(神田和泉・元おばちゃんちスタッフ)

この世のしがらみから自由になる2週間ほど前でしょうか？ 病院で病室に入ってきた看護師さんに、「きれいな眉、素敵！」と言っていて、どこにいてもみこちゃんはみこちゃんだなあ〜と思われました。(小林けさみ・しながわチャイルドライン)

「大丈夫よ。なんとかなるから。お母さんが楽なのが一番よ♡(\*^\_^\*)」いろいろと相談しては、励ましシャワーを浴びてきたけど、最後はいつもこう言われた。ホントかなーと思ったこともあったけど、実際になんとかなってきたから本当なのだと思う。どんな球を投げてモドラえもんのようにポケットから何かを取り出して解決方法を教えてくれた。「たくさん悩んで自分が決めたことは正しいから大丈夫。」とも言ってくれた。これは他界した母の言葉でもある。やはり、みこちゃんは私の母である。(三村宏江・おばちゃんち利用者・おせっかいおばちゃん予備軍)

東京の児童館職員を対象とした「シンポジウム」を企画した際に、既に「おばちゃんち」の代表として活躍されていた渡辺さんにパネリストをお願いしたことがありました。渡辺さんはシンポジウムの開口一番、テーマにあった「外野応援団から…」と言う文言に対して、「地域で子どもが育つことに外野も内野も無いわよねえ…」と、やんわりテーマ設定に苦言を呈しました。渡辺さんの「街のつながり」で子育て・子育てを実現しようとする強い意志を感じた瞬間でした。これからも天国から届く児童館への苦言や注文を楽しみにしています。(豊倉厚・元品川区児童館職員)

思いたったら今なのでしょう「かなぶんちゃん手伝って〜」と電話がかかってくると「いいよ」ってワクワク返事。優しい笑顔と、元気パワーのみこちゃん。わたしのコトも面白がって、盛り上げてくれたのです。気付けば、みこちゃんワールドは、そこに広がっていました。たくさんの笑顔にあふれていたのです。みこちゃんワールドは、いつでもここにありました。つながり続けていくわたしも「つながり」作り続けていきますね。(床屋かなぶん・つくりや/ご近所ゆるつながり)

冬が近づいてくると、思い出すのだろう。暗い路地に灯るお勝手の明かり。みこちゃんの「おかえり〜」の声。北浜で冷え切った私を待っていてくれるあたたかい笑顔。飲み歩き、語り合った日々。(宮里和則・北浜こども冒険ひろば)

いつだったか、呑んでいる席だったかな。話題が八潮高校の話になった時、みこちゃんが「私、卒業生だからね」と言ったのに対し、私が「第八高女？」とふったら、わりかし本気な声と顔で、「そんなに古く無いわよ!!」と言われたのを、何だか強く覚えています。懐かしく、ただ懐かしく思い出しました。(市川貴弘・はっぴいトライアングル)

「皆にお知らせする書類、早くまとめなくちゃね。お休みの間に何とかガンバルわ！」と明るく爽やかにおっしゃった渡辺さんのお声が今も耳に残っています。お休みというのは、お正月休みだったと記憶しています。お正月くらい仕事のことは頭から離してゆったりしたいと思っていたわたしは、皆がゆったりしている時こそ仕事ができるかと張り切っている渡辺さんに脱帽でした。渡辺さんは、大変なこと面倒なことをひっくめて、おばちゃんちが大好きだったのでしょね。(片山享子・おばちゃんち理事)

人それぞれ思いや意見が違うのは当たり前、問題はお互いに違いを認め合った上で、矛盾に満ちた現実をちょっとでも良く変えるために、みんなで手を繋ぐこと。頭ではそうあるべきと思っても感情や自己愛が邪魔するのがまた、人間。「気にしない、気にしない」「大丈夫よ、大丈夫」と、私たちが手を繋いで生きることのおかげがえのなさに気づかせ、支えてくれたみこちゃん。あの笑顔が慈母観音のように私の心に生き続けています。(名古屋研一・ひとなる書房)

あの時この時いつの時も「いいんじゃない。それ、いいんじゃないかしら。いいじゃないの。やってみたら？ やってみましょうよ。」でも「メーワク？ …」「そんなことを望んでいるかもわからないし…」「まあ、お互いさまじゃないの。やってみないとわからないじゃない？」と、いつだって、胸の中のワクワクする想像を解き放つ勇氣をくれたんだ。(齋藤千秋・品川はらっぱ探検隊)



©Yoko Takahashi



©Yoko Takahashi

美恵子さん「ふれあいの家-おばちゃんち」の誕生に向けて品川の家で2階でこたつに入りみかんを食べながら熱く語った美恵子さんを鮮明に思い出します。立ち上げてからの10年間、美恵子さんはアクティブでしたね。熱いスタッフを集め、活動の巾を広げていきました。温もりと明るさが基盤のみこちゃんちは活動拠点のネーミングを見るだけでほほえみが生まれてくる。私も自称専属講師としてこれからも子育て支援の援助を続けていきますよー。(佐藤佳代子・保育サポーター養成講座講師)

「あなたは自分で中途半端な人生を選んだんだから、その中途半端を貫きなさい。」迷ってぶれる度に叱ってくれたみこちゃんの声が、今も聞こえます。これからも中途半端、がんばります！(倉田雪絵・おばちゃんち)

大事に可愛がって引越しても付き合ってくれた愛猫を早死にさせてしまい、毎日ペットロス状態の時に偶然出会った迷子猫。余りに急で家を明ける前の日だった。2日間どうしても1人にしなければならぬ。小さく生まれ予防接種もまだ打てないのでペットショップにも預けられない。近所付き合いもないし、身内も居ない。困り果てて、いつも爽やかな笑顔のみこおばちゃんに、もしかしたら…でも厚かましいけど…子猫の命がかかっている…思いきって相談したら簡単に「いいですよ！」と言ってくれた！世の中に、こんな親切ない人いるんだとありがとう！の言葉しかありません。そして、子供達の成長を自分の子や孫のように見守ってくださり、笑顔のおばちゃんは、子どもの成長と共に今も生き続けています。子どもの登校時いつてらっしゃ〜いと満面の笑顔で手を振ってくれた朝、いつまでも忘れません。ありがとうございます。(匿名・近隣)

子育て当事者としてお話をする集まりで、他に適任者がいるのでは…と断ろうとする私に、「今、大変な思いで子育てをしているあなたにこそ、話をして来てほしい」と言われ、勇気をもらいました。また、SKIPなど自主活動が行き詰まっていた時、「一度始めたことを止めてしまうより、続けられる形を探して、細くとも続けるべきよ」と、直接ではなかったと思いますが言われ、みこちゃんが言うのなら…と信じて続けて来ました。おかげで、全て今の自分に繋がっています。(小河原由美子・品川SKIP編集委員会)

「どんな時も、自分は母親である。最も大切なことを忘れてはならない」この言葉は、活動に参加する時、みこちゃんが教えてくれたことでした。目先の価値観に翻弄されず「何が大切か」を見続けることの重要性。「安心・安全」を、人々へ伝えていくこと。それが、自らの生き方を通して「何が大切なのか」を教えて下さった、みこちゃんへの恩返しだと思っています。「みこちゃんのように、若いお母さんを応援できる人に」感謝と誓いをこめ、この目標を持ち続けます。「みこちゃんが笑顔で私たちを見ていてくれる」そんな心強さをみこちゃんが結んでくれた仲間と大切に、これからも歩いていきたいです。(岸弥生・品川SKIP編集委員会)

渡辺さんに、おばちゃんちの10周年を記念して「歌を作って」と依頼を受けた時に、いろんな話をお伺いしました。その中で印象的だったのは「風になろう」という一言でした。一人の人が強い風を吹かせるのではなく、いろんなところでいろんな人がいろんな風を吹かせる、そんな街にしたいという話でした。「風になろう」というフレーズがとても素敵で心に残り、「かぜになろう」という歌を作りました。(三根政信・あそびうたシンガーソングライター)

ミコちゃんはいつも印象に残る素敵な言葉を私たちに投げかけてきた。私が好きなのは「人は違っているから素晴らしい」という言葉である。日本人は「同じでなければいけない」という態度におちいりがちで、それがイジメや少数派排除につながりやすいが、違った人たちが集うことで対話が生まれ、新しい風が起きることを教えてくれた。ミコちゃんはその哲学(人間観)をどこで身につけたのだろう。聞けなかったのが本当に残念である。(小栗崇資・おばちゃんち理事)





おばちゃんち資料集より

## 取材にこたえて

みこちゃんがこれまでに、講演会などでお話したり、いろいろな分野からの取材にこたえて雑誌・新聞・書籍・WEB等の記事になった言葉の中から、大切にしたいことを選びました。

(編: 前野涼子・おばちゃんち)

### 地域の子育て応援NPO紹介1 品川宿に生まれたころとまち を元気にする場所―協働の― の形

区職員を退職し、自分の育った町「品川区」で区民として「共に育ち・共に生きるまちづくり」を始めました。(中略)

団体名に「おばちゃんち」とつけた由来は、地域に野放し状態で育った戦中派の私が、これまでに出会ったおばちゃんに感謝し、おばちゃんを持つ特性の一つでもある人への旺盛な好奇心を、いつまでも持ち続けていきたいと願っているからなのです。(中略)

親切なやさしい他人に見守られて育ったことが今も懐かしく思い起こされます。

この幼少期の育ちが人に寄せる強い信頼感につながっていると思うから、それを次世代にも確実に届ける責任があるという

任侠心に突き動かされ、こんな名前にしました。(中略)

共に生き、暮らす仲間と「出会い・つながり・学びあい・そしてつくる」営みの楽しさを共有することこそ、協働の意味するところだと私は考えています。(中略)

共に生きるための目線が、世代を超えた市民のつながりにあることは、言うまでもありません。それが、おばちゃんちの活動の主な目的だからです。

次世代育成支援ニューズレター No. 2  
厚生労働省 2006年

### 町の「おばちゃん」の力で子育て・子育てにやさしい地域をつくる

「私たちの活動は、子育て・子育てにやさしい町を、みんなのでいっしょにつくっていく『町づくり』だと思ってる(中略)

みんなが育ち合う場にしていきたいんですよ(中略)彼ら(子どもたち)のまわりには

「先生」があふれているとも感じていた。

(中略)でも『おばちゃん』とか『おねえちゃん』とか、いろんな呼び名の大人がいるほうが、子どもたちの暮らしを豊かにすると思った。児童館にいたころは、『好きに呼んでいいんだよ』(中略)退職したら『おばちゃん』と呼ばれるのが夢だったの(中略)

「区の助成事業であるこの子育て交流ルームを始めたころは責任感ばかり感じて、きつかった。だけど、『おばちゃんでもいいよ!』と思えたら、気持ち楽になりました(笑)。(中略)

“Slow(ゆっくり)” “Safety(安心安全)” “Slender(小さく)” の「3つのS」を活動の指針に掲げるおばちゃんち。

(中略)この境界が子育てにやさしいテーマ

パークになったらいいなって思っているんです。近くにできた大きな高層マンションに住んでいる親子を、平地で子育てしようと思いついたんです。マンション暮らしでの子育ては孤独に陥りがちで、大変だと思うから。地べたに足をつけてリラックスして過ごす時間は、子どもが育つうえでも、とっても大切なんだから」。

雑誌「企業診断」

市民起業家という生き方第34回 2007年

### 「関係づくりを編みなおすためにー笑う顔に矢立たずー」

(中略)「関係づくり」が、なぜ必要なのかということから「人」を育てる両親に伝えていくには共に生活するチャンスより多くつくることだ。(中略)

親子はもちろんのこと、支援者を含めてなすべきことは積極的な人と人とのかわり学習ではないだろうかと私は考えている。(中略)

そうした居場所や地域づくりに、おばちゃんちは「水平な関係」という言葉を大切にしている。

同じ目線で、互いに尊重し合いながらお付き合いをする。人は「独一無二」Only

one!!みんな違って、みんないい」である。(中略)おばちゃんちはこれからも平らな関係で、笑顔で、良く聴く心をもって運営していけたらいいなと願っている。

平成十九年度人間関係力を育む子育て環境づくり支援事業 報告書

むすんでひらいて 編みなおして  
財団法人日本女性学習財団 2008年

### 「おばちゃんち」心地いい品川の子育て支援NPO、5年の歩みに

「児童館とはちよつと違う、子どもと大人の心の居場所をつくりたい」…赤ちゃんからお年寄りまで心地よく過ごせるまちづくりを応援できないか(中略)

「良質なおせっかい」で人を巻き込んでいくのがこつだという。…『おばちゃんち』は風を吹かせること。来た人が何かを感じ、学びなり子育て支援なりを自分で始める。そのつながりが心地いい(中略)

朝日新聞2008年10月29日

### 子育て支援でまちづくり

「施設の管理人になっていないかと上司に言われたことがあって、待ちの姿勢でなく、地域をフィールドに地域の人たちが心

地よく暮らせる環境整備をするのが仕事ではないかと思うようになったんです」

都政新報 2008年11月14日

### 赤ちゃんから高齢者まで世代を超えてふれあい暮らせる「まち」をつくりたい

これまでに出会ったおばちゃんに感謝をし、自分もおばちゃんを持つ人への旺盛な好奇心をいつまでも持ち続けていたいと強く願って提案(中略)

この幼少期の育ちが成人しておばちゃんになった今、人に寄せる強い信頼に繋がっていると設立メンバー全員が確信し、次世代にも確実に届ける責任があると任侠心が突き動かされたのでこんな名前にしました。(中略)

自分たちの活動は「子育て支援」という分野ではなく、「ともに生き、ともに暮らすまちづくり」ということになりました。赤ちゃんから高齢者までがこのまちで生きていくことが楽しいと感じられるようなそんな「風」を小さなおばちゃんちから送り続けたいねと(中略)「できることを、できるだけ、楽しく」をモットーに(中略)

「ホットほっとHOT」という居場所は主に



若者と乳幼児の出会いを大切にしました。(中略)限りなく脱日常の世界をおかあさんたちに用意しました。(編者注:大崎みこちゃんち)(中略)

おばちゃんちに集まってくる若者やお母さんがおばちゃんと心地よい人間関係を繰り広げている姿がまちを歩く人々から丸見えのところにあることにちよつぱり気負いながら頑張っています。(中略)

自分たち高齢者だけが気負っておこなうのではなく、そこに若者をはじめ様々な世代の人たちが自分のできることで関わるような仕掛けを考え、ともに暮らす街の営みを編み上げていくことの大切さを知りました。「支援」という姿勢ではない「ともに暮らす」というおばちゃんちの姿勢が多くの方の共感を呼んでいます。水平な関係でお付き合いが始まると地域は豊かな人生の学びの場と変化します。そして、人は人とかかわりの中で大きな喜びを見出す動物だと実感することができま

あしたのまち・くらしづくり活動賞  
内閣総理大臣賞 2009年

## コミュニケーション

「商店街の道で泣く子どもをあやすお母さんに、道行く人が「かわいいねえ」と声を

掛けてくれる。そういう「風を吹かせる」ことが、やりたかった街づくりです」

シルバー新報 2009年1月1日

## プラスシセツ

### 「老後を快適にする場所」

「おばちゃん」の特性は、身上調査が得意で、プライベートにかなり踏み込むというもの(笑)。(中略)わずらわしい面もありますが、それがなくなると私達の暮らしは孤独になってしまいました。だから、私たちは、良質なおせっかいを發揮して、赤ちゃんから高齢者まで世代を超えてふれあえる街づくりをしたいと思います」

渡辺さんいわく、良質なおせっかいとは、「優しい笑顔を忘れない」こと、「気軽な声かけができる」こと、「よく聴く心を持つ」ことの3つ。

「ここでは、プロの仕事はいらないと思っています。それより、どれだけ人間味のある関わりを持てるかが大事です。(中略)しかし、命を守るという責任以外については、おばちゃんたちが続けられるよう、無理をしないのがモットーです。おばちゃんの手が足りない時は、お母さんに代って手伝いを求めます。サービスマンとは思って

ないので」

うちをモデルに活動するところも出てきています。でも、私自身がチェーン店のようには増やしていいとは思いません。やっていく人たちにはそれぞれ文化や思いがあるわけで、一軒一軒違うおばちゃんちなんです。

65+(ローゴプラス)vol.5  
2009 Summer Autumn

### 「近所、地域の支えあいで子育てを楽しく」

孤立せず、その人らしく生きていけるまちをめざして人と人ともやいなおしたいと、100人のおばちゃんたちと「赤ちゃんの泣き声をまちに取り戻そう!」を合言葉に毎日品川のまちに飛び出している。

「今は子どもが泣くとサッシの窓をびたつと閉めて、周りを気にし息を殺して子育てしている。息を殺しての子育ては苦しいでしょ。ここに拠点をつくったことで、まちで子どもが泣くことが当たり前前の状態にしたい」と渡辺さんは言う。(中略)区の要請は短時間労働者のための保育であったが、渡辺さんは在宅で子育てしている親た

ちに理由を問わない一時保育ができることを条件に区の要請を受けることに。品川区保育課では子育て支援NPOとの協働は「ふれあいの家—おばちゃんち」が初めてということだ。

渡辺さんによると保育ルームはこじんまりとした広さが大事なのだという。この広さだから家庭の雰囲気保てるそう。なまじ広いとNPO本来のミッションである人と人がつながりあうまちづくりは横において、保育園への道を選ぶことになったかもしれないと渡辺さんは思っている。

役所ではできない民の仕事にこだわっている渡辺さんは「ここでの有料保育『ほっぺ』事業は『おばちゃんち』としては異質だという。(中略)

渡辺さんたちが目指すのは、町の人間として近所のおばちゃんとしては当たり前前のごとをやることだ。ちよつと抱っこしてあげたり、あやしたりすること。単なるサービスマシステムではなく、人と人の温もりのあるつながりを取り戻すということ。(中略)だから一時預かりはそれほど積極的にやりたかったわけではないと言ふ。それでも、引き受けたのは「親の子育て力」をつけることを応援できるかもしれない、それはすなわち自分たちの求めているまちのた

すけあい、支えあいに通じると考えたからだ。

市民・まち・アクションレポート 2009冬

## VIII 子どもと文化

### 事例③ 「おばちゃんち」が育む

#### 「ゆるつながり子育て支援」

おばちゃんちは隣で、目の前で、困っている人がいたら勇気を持って自分のできるお節介を焼くことにしました。

おばちゃんちの活動は、よく子育て支援のジャンルに入れられますが、おばちゃんちは「まちづくり・ひとづくり」活動と考えています。共に暮らす人々がつながっていく楽しさを実感しています。人と人がゆるくつながることで「孤独感」や「孤立感」が薄れ、「よし！ わたしもがんばるぞ!!」って元気が生まれていくさま(中略)親が、子が、仲間と育ちあうための応援です。(中略)

少子化の時代は子育て文化の伝承を思いもよらぬ形で分断し、落とし穴を作っていきます。だからこそ、おばちゃんやおじちゃんや「よつて・たかつて・かかわって」何を伝え、何を残していくかを考え、地域で行動することが元気で、やさしいまちにする

と思っています。

「泣きたいんだよね。泣きたいだけ泣いていからね。おばちゃんがしつかり抱っこしてあげる」。これが、おばちゃんちが子どもとかかわるのに一番大切に行っている合言葉です。

いつの間にか子どもは泣くものという実体験が薄れ、「どうして泣くの?」「どうして眠ってくれないの?」「おとなしくって、手のかからない子どもでいてほしい」と願う親たち。子どもが泣くのは当たり前、子どもが静かな時は病気の時で、むしろ心配な時と語り継がれていた「子どもの姿」が忘れられてきています。(中略)まちで共にくらす人として、平らな関係でゆるくお付き合いすることが心地よさを生む、「おばちゃんち」の実践を通してわかりました。(中略)「おばちゃんち」の活動に参加する仲間のつながりを「おばちゃんち界限」と名づけました。この界限という言葉に血縁でも、地縁でもない、新しいコミュニティの創造がある(略)

子ども白書2010

●●●●●

### 家族と地域の絆を見つめ直す

「おばちゃんちの風を受けた人が、自分で

次の風を吹かせる。それは組織や仕組みではできない。つながりの中で生まれるものでは」と渡辺さん(中略)「価値観は人それぞれ違つて当たり前。だから、参加するもしないも自由」と渡辺さん(略)

りぶる 2010年11月号

●●●●●

### 笑顔の協働で広がる、あたたかいまちづくり

「私たちの理念に沿つてやらせてもらえるのならやりましょう」とお返事しましたが、最初はNPO法人東海道品川宿の方々や中小企業診断士さんから「このおばちゃん、何を言っているのかまったくわからない」と言われるほど、立場や言い分がかけ離れたところからの話し合ひでした。

設立から6年目くらいのころ、すごく悩んでいた時期がありました。事業が拡大したことから、24時間頑張つても仕事が進まない、付かなくなり、気が付くと口から文句やグチばかり出てしまつていたんです。自分が賃労働をずっとしてきたことから、仕事賃労働という価値観で考えてしまつて、喜びを感じるというよりも、割が合わないと思うようになっていたんですね。

そこで、このままじゃいけないと、「ライフ

ワーク”つて言つてみよう……私は生涯子どもとその家族に関わり続けるんだ。好きで始めたことがそのまま私の今の充実した時間になつていっているんだ」と思えたら、仕事をまったく厭わなくなり、前向きな気持ちになれた(中略)

組織運営のやり方も変えて、苦しい部分はほとんど手伝つてもらふことを考えるように(中略)ただ区から助成金をいただくようになって、事業が増え、人もたくさん雇うようになった分、スリムになれなくなつてしまつています。(中略)私は「職場づくりじゃなくて、まちづくりがしたかったのにな……」とジレンマを抱えています。(中略)「おばちゃんち」のダイエツトに成功して、私は早くまちのおばちゃんに戻りたい、と思つています。

街元氣—まちづくり情報サイト

2012年4月

●●●●●

### 「おばちゃんち」は、学びあい、育ちあいの場

(略)正直なところ、おばちゃんちを運営するのは面倒くさいのでは? 渡辺さんは間髪を入れず答える。「そこがおもしろいのよ!」

「あえて面倒なことをするのが、コミュニ

ティの復活につながると思つています。面倒を省いたために起きてしまつた問題は少なくない。子どものころに面倒くささを体験できなかった人たちが今、親になつている。おばちゃんちは、大人が育つための大切な「場」でもあるのです(中略)

「お母さんたちには、子育て力をつけ、自分の足で立つてほしい。やつてあげるんじゃない、彼女たちができるようにするのが、私たちのめざすこと。(中略)これまで自分たちの活動に精一杯で、市民活動を始めたいと思う人たちが容易に立ち上げられる環境をつくるのができなかった。これからの10年で、それをつくるのが私たちの仕事だと思つています。めざすは1000人のおばちゃん。支えあい、学びあい、育ちあいながら「まち」をつくる、そんな人びとを増やしたいのです。

ネットワーク2012/8・9



©Yoko Takahashi

# みこちゃんに会いにいこう

本の中で、DVDの中で、語るみこちゃんに  
いつでも会うことができます。

## まちの子どもをまちで育てる

自分が育つ時にまちのおじちゃんおばちゃんにやさしく育ててもらったっていう思いと、児童館やってる時に私の仕事を助けてくれたのはまちの人たち、って思っているから、やっぱり、**まちでみんなで子育てを楽しむもうよっ**ていうまちづくり・地域づくりっていう思いはすごくこだわりたいね。

このページのみこちゃんの言葉は、10周年記念DVD「ホッとひといきあしたのまちへ」より引用しました。入手はおばちゃんち事務局へ。



P17,18,20,21,26のカットは5周年記念書籍「品川に100人のおばちゃん見つけ!」(丹羽洋子著・ひとなる書房刊)より転載しました。ここに描かれた、おばちゃんち発足前のみこちゃん人間模様も必読。入手は書店やamazonまたはおばちゃんち事務局へ。



「かぜになろう」はおばちゃんちのwebページから聞くことができます。  
<http://obachanchi.org/ja/songs.html>

## 人と人が ゆるくつながるまち

おばちゃんちの活動ですごく大事なのは、やっぱり仲間とのつながり。こうすると楽しいよね、こうなったらいいねっていうその思いでつながっていくから、あの人をこっち向かせたいとかさ、そんな風には思わないんだよ。その人が向きたくなったら向けばいい。**価値観の違いがあってもいい**っていう風に思えるか思えないかというのはまちづくりの基本だと思っているから。

## あたたかい風が吹くまちへ

温かさを持つ人が10人いれば、冷たい風の人5人いても住んでいけるじゃん。そうするとその5人も温かい風に巻き込まれていくでしょう。そういう意味で「風」っていいな〜って思ってるんだよ。**私が扇風機のように一点から風を起こすんじゃなくて、私と誰かと誰かと誰かがぐるぐる回って風が起きているんだと思うんですよ。**



ご家族が管理されている  
みこちゃんのfacebookページ

<https://www.facebook.com/mikoobachan>

SpecialThanks ♥ 窪田真起子様、名古屋研一様、澤井正延様、阿部勲様



2008年 ほっぺの研修旅行で

みこちゃんの大好物  
木村屋の水羊羹とベヤングソースやきそば

## あとがき

四月、みこちゃんの告別式からの帰り道、青物横丁の「オリーブ」に、品川SKIP編集委員会のメンバー他、おぼちゃんち界限の仲間たちが集まっていた。話は尽きることなく、「ぜったいに偲ぶ会、やりたいね!」と誓って別れた。

一方おぼちゃんちでは、「偲ぶのはまだ早い、でもその代わりに、振り返りと思いを語る会が必要なのではないか」という声が上がっていた。

そして九月、「みこちゃん思い出の会」を年末に開催することが決まった。

これを受けてSKIP編集委員会を中心に、みこちゃんに育てられたと言っても過言ではない有志が集結し、「みこちゃん本編集委員会」を結成。冊子「風の記憶」がありがとう、みこちゃん」の刊行に向け走り出した。(「プロジェクトX」風に)

この冊子に記されたように、みこちゃんの巻き起こした風の記憶は、いつまでもあたたかい風を吹かせ続けています。

編集にあたっては、たくさんの方々に、みこちゃんの思い出を語っていただきました。ご協力本当にありがとうございました。

みこちゃん本編集委員会

【編集】吉仲理恵 小河原由美子 倉田雪絵  
【編集協力】前野涼子 三輪紀子 品川SKIP編集委員会  
【カット】高橋葉子 武藤紀子 【写真提供】武田寛美 矢内美佐子  
【協力】渡辺真紀子 名古屋研一 澤井正延 阿部勲 松田誠一  
copyright 2014「みこちゃん本編集委員会」